

専齋 SENSAI



撮影：前田茂人(外科)

院長年頭所感
幹部職員 新年の抱負
年男・年女の今年の抱負

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感



病院長
江崎 宏典

2018年、あけましておめでとうございます。皆様、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて本年は2年に一度の診療報酬改定の年にあたります。医療のあり方に大きな影響を及ぼすのはもちろんのこと、病院の運営にも大きく関係するので、その改定の中身が大変気になるところです。改定にあたっての基本方針は社会保障審議会医療部会でその概要が示されていますが、地域包括ケアシステムの構築と医療・介護の現場における働き方改革といった、現在最も関心の高い2つのテーマがあげられているのは当然のように思われます。

ご承知のように地域包括ケアシステムは、急速に進む高齢化と人口減少社会を迎える2025年（そしてそれ以降も）において、住み慣れた地域で安心して適切な医療と介護とを受けられるために実現が望まれる制度です。2025年まであと7年となった今回の改定の本丸であり、そのために医療機能の分化と介護との連携の推進が高く評価されるのも頷けるところです。そして医療機能や患者の状態に応じた入院機能の評価がどうなされるのか、端的に言えば7対1入院基本料の基準の行方が我々にとっては気になるところです。

そしてもう一つの働き方改革の方も同等、もしくはそれ以上のインパクトのある重要なテーマです。これからの医療提供体制において、ハード面の整備が地域包括ケアシステムの構築であるならば、医療の現場での新たな働き方の推進はソフト面の整備といえるかもしれません。

地域医療構想の策定、地域包括ケアシステムの構築については数年前から言われてきており、準備も進んできています。地域医療構想についてはすでに各構想区域で病床の数について具体的な検討にはいっているところで

すし、国立病院機構を含めた公的病院についてはこれから担うべき役割などについてその方向性を率先して明らかにするように指示されており、各病院においても受け入れ態勢は整ってきているように思われます。

それに反して、働き方改革、見直しについてはどのように進めていくのか、まだまだ手探りの状態であると言わざるを得ません。そもそもこの働き方改革は安倍首相の肝いりで設けられた「働き方改革実現会議」において議論が始まり、2017年3月に決定された「働き方改革実行計画」のあたりから大きな流れになってきました。そこで時間外労働の罰則付き上限規制の制定などが示され、また長時間労働に伴って起こった不幸な事件もあって、社会的にも広く注目を浴びるようになりました。なお医師の働き方については医師法に基づく応召義務との兼ね合いもあり、新たに設けられた「医師の働き方改革に関する検討会」において労働時間規制の具体的なあり方や短縮策等が2年の間に検討され、結論を得ることでなっています。

働き方改革においては長時間労働の削減ということに関心が向いていますが、残業時間の削減が働き方改革の目的ではありません。長時間労働の削減は重要な課題ではありますが、働き方を見直し、勤務環境の整備を行うことにより、健康を維持し、やりがいのある人生を送ることが目的であり、長時間労働の削減は働き方改革に取り組んだ結果であります。どのように働き方を見直し、効率化を進めるかについて、皆様から様々なアイデアなどをいただきながら、病院一丸となって働き方改革に取り組んでいきたいと思えます。

本年が皆様にとって素晴らしい年であることをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
6. 健全な経営基盤を確立する

新年の抱負(幹部職員)

副院長 藤岡 ひかる

新年明けましておめでとうございます。

今年も皆さんにとって、昨年以上に良い年であることをお祈りいたします。

昨年暮れから新年にかけて多くの救急患者さんや入院中の患者さんの治療、看護、検査等に忙しかった職員の皆さんも多かったと思います。お疲れ様でした。

厚労省が進める地域医療構想においては、長崎医療センターもいろいろ難しい問題に直面しています。また、今年の診療報酬改定においては、大変厳しいものになるようです。それでも、急性期医療を担う病院として、今まで以上にその旗を高く掲げ、皆さんとともに頑張りたいと思います。

また、『働き方改革』ということが喧しくなっています。

我々医療従事者も確かに労働者であります。『働き方改革』は、我々の身体そして生活を守ることを第一義的に考えたものであることは間違いありません。しかし、我々が相対するのは患者さんです。自ずと杓子定規にいかないこともたくさんあります。『働き方改革』を理由にして、患者さんにいわずらにその代償を負って貰うことは許されません。それでも、従来の発想や考え方では『働き方改革』は行えません。医師、看護師、コメディカル、事務の皆さん等、長崎医療センターの全職員が発想や考え方を新たに、『働き方改革』に取り組んでいきましょう。長崎医療センターの職員全員が考え、知恵を出し合って頑張りましょう。

今年も、皆さんにとって素晴らしい一年でありますように !!

臨床研究センター長 八橋 弘

2週間前AIスピーカーを購入した。毎朝、今日の大村の天気と私の予定をAIスピーカーに尋ねている。

今年の国立病院学会でビッグデータを用いた臨床研究の実例として、電子化され保存されている2521万人、16億のレセプト情報から解析したわが国の肝炎患者の動向を発表した。病院で診療治療を受けているC型肝炎患者数は約50万人、過去4年間にその患者数は17%減少した。それは最近の抗ウイルス療法の効果でもあり、2030年までにC型肝炎患者はゼロに近づくことなども紹介した。

グーグルが医療の分野に参入すると宣言した。採血ロボットは実用化され、手術ロボットの開発も進んでいる。キーワードはビッグデータと人工知能AIである。当院で

も新時代の臨床研究の手法導入に向けて準備をおこなっている。

患者情報を手入力で登録、分析する方法は古典的となりつつある。レセプトや電子カルテから必要な情報を自動的に吸い上げ加工し、AIで分析する方法が始まっている。囲碁や将棋の領域でも人工知能が名人に勝つように、伊東先生の病理診断、西山先生の内視鏡診断とAIが勝負する日はそう遠くないようだ。

ロボットやAIにはできないことは何か、今から考えるべきと思う。その答えは50年以上前に発表された(鉄腕アトム)の世界に描かれていたような気がするが、人らしさ、暖かさ、が医療の現場にも臨床研究の場にも求められているのだと思う。

統括診療部長 吉田 真一郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に統括診療部長を拝命し、早9ヶ月が過ぎました。地域連携や教育をはじめ、病院内外の諸々の業務に新しく携わることになりましたが、まだまだ至らぬ点も多く、ご迷惑もおかけしたと思います。少しずつ新しい業務に慣れ、自分の役割も少し見えてきたところです。本年も、引き続き現場の目線を大事にしなが、診療部各部署が十分に機能を発揮できるよう、しっかりとまとめ役、調整役を務めていきたいと考えております。どうぞよろしく願います。

現在、国として、そして当院においても働き方改革の取り組みが推進されています。診療部、特に医局において、

この改革に具体的にどう取り組んでいくのか、本年の大きな課題です。当院がこの地域における拠点病院として、医療だけではなく、教育、研究についても、今の高いレベルを維持し、そしてさらに向上させることを求められる一方で、それに疲弊することなく、如何にして充実した働きやすい職場環境を作りあげていくのか、それぞれにおいて「ワークライフバランス」、「ワークライフシナジー」、相乗効果をもたらされるような仕事と生活の充実につなげていけるのか、皆さんにとってより良い方向に向かえるよう、一緒に考えながら、積極的に取り組んでいきたいと思っております。どうか皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。



新年の抱負(幹部職員)

事務部長 米田 國治

新年あけましておめでとうございます。旧年中は「SENSAI」をご覧いただいている皆様方、関係の皆様方に多大なご支援をいただきました。紙面を借りまして御礼申し上げます。

病院事業は非常に厳しい状況にあることから、昨年は院長主導のもとに各種のプロジェクトチームを立ち上げ改善に取り組んだところです。地味ではありますが2UP3DOWNをはじめとする省エネ活動にもご協力をいただきました。引き続きご協力をお願いします。

さて、事務部門の今年の抱負・取り組みのとして、昨年のプロジェクト活動を事務部門内でさらに発展させていかないとなりません。また、昨年から作成を開始した「事業継続計画(BCP)」は災害拠点として役割を果たし

ていくうえでも重要な案件ですので、早期に完成させなければなりません。さらに、事務部門内部のこととして、些細な仕事でも雑な雑用とせず、基本的なことを丁寧に行うことや働き方改革という視点も踏まえ、現在行っている業務が何故必要なかを問い直して行くこととしたいと考えています。関連して、常に「So What」を意識して日々の業務に取り組んで行きたいと考えています。「本当にそうなのか」という視点を持ち、一人一人が考えながら行動をするように心がけていきたいと考えています。

これらの取り組みが、当院の役割を果たしていくということにつながっていくものと信じています。職員はもとより、関係各機関の皆様にもご協力をお願いする場面も数多くあると思います。どうぞよろしく申し上げます。

看護部長 杉原 三千代

新年明けましておめでとうございます。

昨年はプロジェクトを立ち上げ、職員全員で経営改善に取り組んだ年であったと思います。その成果も少しずつ見えてきました。これもひとえに皆様の努力の賜物と感謝申し上げます。今年はいよいよ診療報酬と介護報酬ダブル改定です。マイナス改定は免れないようです。医療の動向を鑑み、それに対応できるよう看護部も努力していきます。重症度、医療・看護必要度につきましても急性期病院としての生き残りをかけて更なる精度アップに努めなければなりません。目標30%を掲げて取り組みたいと思います。これまでの問題点を見つめ直して、堅実な一年を過ごしたいものです。今後働き方改革の推進で更なるチーム医療の推進が必要となります。チーム

医療の要となる看護師はそのことを念頭に、多職種とのコミュニケーションを今以上充実させていきたいと思います。また、看護職員全員が長崎医療センターの職員としての誇りと責任を持ってほしいと思っています。先人たちが築き上げてきたものを伝承しつつ、質の高い看護を提供できるようACTYナースに沿った人材育成に力を入れていきたいと考えております。今年の干支戌犬(つちのえいぬ)には、草木を減るという意味があるそうですが、これは次に進むための新しいステップでもあります。決して楽な年にはならないでしょうが、皆さまの力をお借りしながら、前へ一歩一歩進んでいきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

年男・年女の今年の抱負

新年明けましておめでとうございます。

本年は、2回目の「年男」を迎え、長崎医療センターに入職し、早くも5年が経とうとしています。温かい方々に囲まれ、充実した日々を過ごしております。

今年は戌年に因んで、仕事に取り組む上で常に「ワン」ランク上の目標を持ち、当院の業績向上へ「貢献」できるよう、努めていきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

事務部企画課財務管理係 久家 雄飛

新年あけましておめでとうございます。

2回目の年女、長崎医療センターで働き始めて早2年が経とうとしています。2年前緊張と不安がありながらも多くのスタッフ、患者さんに支えられここまで働くことが出来ました。戌(犬)には「忠誠・献身」という意味があるそうです。私も患者さん、家族に寄り添う看護を行っていくよう、患者さんとのコミュニケーションを大切に、スタッフと連携しながら看護の提供を行ってまいります。

8A病棟 加藤 鈴

